STV創立50周年記念
セザンヌ主義©

Homage to Cézanne

セザンヌ主義――作品リスト

プロローグ

南仏で孤高の制作を続けたポール・セザンヌ(1839〜1906)の存在が大きく世に示されるには、すでに老境にさしかかった1895年のパリでの個展、そして死の翌年の1907年にサロン・ドートンヌで大回顧展が開催されるのを待たねばなりませんでした。この時、印象主義に発しながらもはるかに知的で、新鮮かつ情感ゆたかなセザンヌ絵画は、パリの美術界を震撼させました。とりわけ、新しい時代に、新しい表現を志す野心あふれる若い画家たちは多大な関心を示しはじめました。本展は、生前の画家に親しく接し、セザンヌの言葉を世に伝えたベルナールによるセザンヌの肖像画と、ドニによる、戸外でセザンヌが制作する様子を描いた作品をもって幕をあけます。

No	作品名	作家名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先
1	セザンヌ訪問	モーリス・ドニ	1906年	油彩、カンヴァス	51.0×64.0	個人蔵
2	セザンヌ礼讃	エミール・ベルナール	1904年	油彩、カンヴァス	39.0×30.2	グラネ美術館

Ⅰ. 人物画ー女性肖像

セザンヌの人物画には、自画像のほか、夫人と息子など身近な人物を写した肖像画、何らかの逸話を想起させる風俗画、そして水浴図などがあります。印象主義を経験することにより、セザンヌは対象を客観的に見るようになり、その色彩は明るさを増し、筆触は繊細で規則正しいものになっていきました。これらの人物画では、対象への感情移入を抑制しつつ、印象主義的な画面に、より明確な形態と構成を与えようと試みています。このコーナーでは、セザンヌの人物画を、女性肖像、男性肖像、水浴のパートに分けて、それぞれを彼の影響を受けた20世紀の画家たちの作品と対照させて展示します。

3	麦藁帽子をかぶった子供	ポール・セザンヌ	1896-1902年頃	油彩、カンヴァス	107.5×91.0	メナード美術館
4	少女	ポール・セザンヌ	1873年	エッチング、紙	13.0×10.5	横浜美術館
5	赤い帽子の少女	前田寛治	1926年	油彩、カンヴァス	91.3×73.2	兵庫県立美術館
6	セザンヌ夫人の肖像	ポール・セザンヌ	1885-87年	油彩、カンヴァス	46.0× 38.3	フィラデルフィア美術館
7	縞模様の服を着たセザンヌ夫人	ポール・セザンヌ	1883-85年	油彩、カンヴァス	56.8×47.0	横浜美術館
8	セザンヌ夫人の肖像	ポール・セザンヌ	1886-87年	油彩、カンヴァス	46.8×38.9	フィラデルフィア美術館
9	青い衣装のセザンヌ夫人	ポール・セザンヌ	1888-90年	油彩、カンヴァス	74.1×61.0	ヒューストン美術館
10	パトロンの娘	ポール・ゴーギャン	1886年	油彩、カンヴァス	55.3×46.0	モーリス・ドニ=プリウレ美術館
11	ルイーズ、あるいは ブルターニュの従業員	ポール・セリュジエ	1891年	油彩、カンヴァス	73.0×60.0	モーリス・ドニ=プリウレ美術館
12	アガーテ・ヴェゲリフ・ グラヴェスタインの肖像	キース・ヴァン・ドンゲン	1909年	油彩、カンヴァス	100.0×81.0	北海道立近代美術館
13	少女の肖像(ユゲット)	アメデオ・モディリアーニ	1918年	油彩、カンヴァス	91.5×60.5	アサヒビール株式会社
14	ひじ掛け椅子で眠る女	パブロ・ピカソ	1927年	油彩、カンヴァス	92.0×73.0	横浜美術館
15	ドラ・マールの肖像	パブロ・ピカソ	1937年	油彩、カンヴァス	55.0×38.0	徳島県立近代美術館
16	毛皮襟の女	マルク・シャガール	1934年	油彩、カンヴァス	61.0×50.0	AOKIホールディングス
17	すわる女	ジョルジュ・ブラック	1934年	エッチング、紙	24.0×18.0	横浜美術館
18	背筋の女	有島生馬	1909年	油彩、カンヴァス	40.5×32.8	横浜美術館
19	少女像	安井曾太郎	1912年	油彩、カンヴァス	55.3×46.5	京都国立近代美術館
20	婦人像	安井曾太郎	1912年頃	油彩、カンヴァス	60.3×50.4	愛知県美術館
21	婦人像	安井曾太郎	1930年	油彩、カンヴァス	115.2×87.5	京都国立近代美術館
22	少女(2)	森田恒友	1914年	油彩、カンヴァス	72.6×60.2	埼玉県立近代美術館
23	N婦人像	小出楢重	1918年	油彩、カンヴァス	92.9×80.2	愛知県美術館
24	西洋婦人像	前田寛治	1925年頃	油彩、カンヴァス	90.5×73.0	鳥取県立博物館

Ⅰ. 人物画－男性肖像

26	画家の肖像	エミール・ベルナール	1890年	油彩、カンヴァス	56.0×46.2	ブレスト美術館
27	樹と道　自画像其四	岸田劉生	1913年	油彩、カンヴァス	53.0×46.2	兵庫県立美術館 (財)伊藤文化財団寄贈
28	自画像	前田寛治	1921年	油彩、カンヴァス	60.8×45.5	東京藝術大学
29	パレットを持つ自画像	佐伯祐三	1924年	油彩、カンヴァス	72.0×61.0	新日本石油株式会社
30	ギヨーマン像	ポール・セザンヌ	1873年	エッチング、紙	12.0×10.5	横浜美術館
31	坐る農夫	ポール・セザンヌ	1897年頃	油彩、カンヴァス	55.0×46.0	財団法人ひろしま美術館
32	帽子をかぶった男	パブロ・ピカソ	1914-15年 (1930年刷)	エッチング、紙	6.8×5.5	横浜美術館
33	ギターを持つ男	パブロ・ピカソ	1915年 (1929年刷)	エングレーヴィング、紙	15.7×11.5	横浜美術館
34	パイプを吸う男	有島生馬	1908年頃	油彩、カンヴァス	73.0×59.0	鎌倉市
35	斎藤与里氏像	岸田劉生	1913年	油彩、カンヴァス	53.0×41.0	愛知県美術館

Ⅰ. 人物画－水浴

★36	水浴	ポール・セザンヌ	1877-78年	油彩、カンヴァス	22.0×14.0	
38	裸婦	ポール・セザンヌ	1870年頃	鉛筆、紙	22.0×33.0	個人蔵
39	泣く女	アンリ・マティス	1900-03年	ドライポイント、紙	15.0×10.0	横浜美術館
40	裸婦	安井曾太郎	1910年	油彩、カンヴァス	60.6×50.0	三重県立美術館
41	寝たる女	安井曾太郎	1912年	油彩、カンヴァス	45.5×53.0	茨城県近代美術館
42	裸婦立像	小出楢重	1925年	油彩、カンヴァス	53.2×45.5	三重県立美術館
45	水浴	ポール・セザンヌ	1883-87年	油彩、カンヴァス	19.0×21.0	大原美術館
46	水浴	ポール・セザンヌ	1895年頃	油彩、カンヴァス	20.6×30.8	フィラデルフィア美術館
47	水浴の男たち(大)	ポール・セザンヌ	1896-97年	カラー・リトグラフ、紙	45.5x51.0	横浜美術館
48	水浴の男たち(小)	ポール・セザンヌ	1896-97年	カラー・リトグラフ、紙	27.3x45.5	横浜美術館
49	宴の準備	ポール・セザンヌ	1890年頃	油彩、カンヴァス	45.0×53.0	国立国際美術館
50	7人の水浴の裸婦	エミール・ベルナール	1889年	油彩、カンヴァス	63.0×61.0	個人蔵
51	森の春	モーリス・ドニ	1907年	油彩、カンヴァス	136.0×198.0	モーリス・ドニ＝ プリウレ美術館
52	赤い帽子の浜	モーリス・ドニ	1909年	油彩、カンヴァス	95.0×125.0	モーリス・ドニ＝ プリウレ美術館
53	ふたりの女	ケル＝グザヴィエ・ル-セル	1900年頃	油彩、カルトン	19.0×29.0	個人蔵
54	夏、あるいは水浴の女	ケル＝グザヴィエ・ル-セル	1900年頃	油彩、カンヴァス	30.0×48.0	個人蔵
55	セザンヌ作品の模写	ケル＝グザヴィエ・ル-セル	1914年	リトグラフ、紙	15.0×21.8	個人蔵
56	泉、あるいは青春の泉	ケル＝グザヴィエ・ル-セル	1923年頃	油彩、カンヴァス	105.0×81.5	ウィンテル・コレクション
57	ふたつの裸体	パブロ・ピカソ	1909年	ドライポイント、紙	13.0×11.0	横浜美術館
58	水浴	アンドレ・ロート	1918年	油彩、カンヴァス	60.0×73.0	北海道立近代美術館
59	ダンス	アンリ・マティス	1935-36年	エッチング、紙	23.6×74.0	横浜美術館
60	水浴図	安井曾太郎	1915年頃	油彩、カンヴァス	91.0×72.0	島根県立石見美術館
61	港の女	黒田重太郎	1922年	油彩、カンヴァス	66.5×82.0	東京国立近代美術館
62	裸婦群像	川口軌外	1925年頃	油彩、カンヴァス	87.8×95.0	和歌山県立近代美術館
63	水浴	須田國太郎	1935年	油彩、カンヴァス	180.3×284.5	福岡市美術館
64	釣り人たち	ポール・セザンヌ	1872-75年	鉛筆・水彩、紙	9.0×12.5	個人蔵
65	ピクニック(草上の昼食)	ポール・セザンヌ	1875年頃	鉛筆・水彩、紙	9.5×13.0	個人蔵
★66	草刈り人(表面)	ポール・セザンヌ	1878-80年	鉛筆・水彩、紙	12.5×22.0	東京藝術大学
★	鎌を持つ男の図(裏面)			鉛筆、紙		

Ⅱ. 風景画

セザンヌの作品の中では、風景画が最も多く描かれました。目に見えるものと対峙し、そこから受ける感覚をいかにして画面に実現させていくかを生涯追求したセザンヌにとって、自然はつねに立ち返るべき拠りどころだったのです。セザンヌは、ピサロに教えられた印象主義の明るい色彩と軽やかなタッチを生かしつつも、ただ自然を写すだけではなく、一つの空間の中で個々の形態が互いに呼応し調和する、堅固な構成をもった絵画を完成させました。それは、やがてピカソ、ブラックなどキュビスム、ドラン、ヴラマンクなどフォーヴィスムの画家たちに受け継がれるとともに、安井曾太郎や森田恒友らフランスを訪れた日本の画家たちにも大きな影響を与えました。

68	林間の空地	ポール・セザンヌ	1867年	油彩、カンヴァス	64.8×54.3	諸橋近代美術館
69	オーヴェールの曲がり道	ポール・セザンヌ	1873年頃	油彩、カンヴァス	59.7×49.0	東京富士美術館
★70	庭の入口の花壇	ポール・セザンヌ	1878-80年	鉛筆・水彩、紙	28.7×44.8	和歌山県立近代美術館(寄託)
71	プロヴァンスの風景	ポール・セザンヌ	1879-82年	油彩、カンヴァス	54.7×65.5	ポーラ美術館(ポーラ・コレクション)
72	ポントワーズ近郊 ヴァルメイユ界隈	ポール・セザンヌ	1881年	油彩、カンヴァス	53.0×85.5	個人蔵

73	北フランスの風景	ポール・セザンヌ	1885年頃	油彩、カンヴァス	45.0×53.5	鹿児島市立美術館
★76	ジャス・ド・ブーファンの大きな樹木	ポール・セザンヌ	1885-87年	鉛筆・水彩、紙	31.5×49.0	静岡県立美術館
77	ガルダンヌ	ポール・セザンヌ	1885-86年	油彩、カンヴァス	80.0×64.1	メトロポリタン美術館
79	風景	ポール・セザンヌ	1885-87年	油彩、カンヴァス	64.5×81.0	大原美術館（白樺美術館より永久寄託）
81	果樹園	ポール・セザンヌ	1890年頃	油彩、カンヴァス	65.4×54.2	ホノルル・アカデミー・オヴ・アーツ
84	リュステファン城	エミール・ベルナール	1889年	油彩、カンヴァス	74.0×92.0	モーリス・ドニ＝プリウレ美術館
85	レスタックのテラス	ジョルジュ・ブラック	1908年	油彩、カンヴァス	41.5×33.5	ポンピドゥー・センターフランス国立近代美術館
86	レスタックの木々	ラウル・デュフィ	1908年	油彩、カンヴァス	45.7×38.2	ポンピドゥー・センターフランス国立近代美術館
87	マルティグ風景	アンドレ・ドラン	1908年	油彩、カンヴァス	100.0×81.0	北海道立近代美術館
88	曳舟、ルーアンにて	モーリス・ド・ヴラマンク	1912年	油彩、カンヴァス	54.5×65.5	諸橋近代美術館
89	ポスターのある風景	パブロ・ピカソ	1912年	油彩、エナメル、カンヴァス	46.0×61.0	国立国際美術館
90	サン・ジェルマン風景	モイーズ・キスリング	1914年	油彩、カンヴァス	92.0×73.0	北海道立近代美術館
91	ミルマンドの城壁	アンドレ・ロート	制作年不詳	油彩、カンヴァス	33.0×24.0	和歌山県立近代美術館
★92	風景	アンドレ・ロート	制作年不詳	水彩、紙	35.4×53.8	和歌山県立近代美術館
93	窓外風景	岸田劉生	1913年	油彩、カンヴァス	44.0×51.7	京都国立近代美術館
94	大崎風景	木村荘八	1913年頃	油彩、カンヴァス	53.0×41.0	練馬区立美術館
95	フランス風景	森田恒友	1914-15年	油彩、カンヴァス	37.5×45.5	東京国立近代美術館
96	フランス風景	森田恒友	1915年	油彩、カンヴァス	50.0×61.0	埼玉県立近代美術館
97	城址	森田恒友	1916年	油彩、カンヴァス	53.0×41.0	埼玉県立近代美術館
★99	郊外の家	小野竹喬	1915年	絹本着色	117.5×39.3	笠岡市立竹喬美術館
★100	晩春図	小野竹喬	1916年頃	絹本着色	129.5×42.3	笠岡市立竹喬美術館
★101	瀬戸内の春	小野竹喬	1916年頃	絹本着色	148.7×51.1	笠岡市立竹喬美術館
★102	初夏（内海所見）	小野竹喬	1916年頃	絹本着色	141.3×52.0	笠岡市立竹喬美術館
103	栴檀の木の家	国枝金三	1921年	油彩、カンヴァス	72.5×60.5	大阪市立美術館
104	村の入口（ル・カーネ）	長谷川潔	1924年頃	油彩、カンヴァス	54.0×65.0	横浜美術館
105	街の風景	前田寛治	1924年	油彩、カンヴァス	112.2×145.5	鳥取県立博物館
106	風景	川口軌外	1925年頃	油彩、カンヴァス	65.5×80.5	和歌山県立近代美術館
107	海への道	北川民次	1942年	油彩、カンヴァス	91.2×116.9	三重県立美術館
108	アルプス遠望	清水多嘉示	1926年	油彩、カンヴァス	51.8×63.8	東京国立近代美術館
109	ガルダンヌから見たサント＝ヴィクトワール山	ポール・セザンヌ	1892-95年	油彩、カンヴァス	73.0×92.0	横浜美術館
110	サント＝ヴィクトワール山	ポール・セザンヌ	1897-1900年	鉛筆、紙	31.0×48.0	個人蔵
111	シャトー・ノワールの近くの高台から見たサント＝ヴィクトワール山	ポール・セザンヌ	1900-02年	鉛筆・水彩、紙	31.0×48.3	個人蔵
113	サント・ヴィクトワール	林倭衛	1925年	油彩、カンヴァス	72.5×99.0	愛知県美術館

Ⅲ. 静物画

身のまわりの事物を自由に配置できる静物画は、セザンヌにとって造形的な実験の場としてきわめて重要なものであり、生涯を通して描き続けられました。その成果が風景画や人物画に応用されていることも少なくありません。我々が実際に対象の量感や質感を捉えようとする時に視点を移動させるように、一つの画面に複数の視点を取り入れたセザンヌの試みは、近代絵画に新たな展開を導くことになりました。セザンヌの強い影響を受けたピカソやブラックは、静物画においてキュビスムの究極的な表現を達成します。岸田劉生や中村彝ら日本の画家たちもまたセザンヌにヒントを得て、独自の静物画を生み出していきました。

115 ふたつの梨	ポール・セザンヌ	1883-87年	油彩、カンヴァス	16.5×24.0	個人蔵
116 3つのりんご	ポール・セザンヌ	1877年頃	油彩、カンヴァス	25.0×36.5	個人蔵
117 りんごとナプキン	ポール・セザンヌ	1879-80年	油彩、カンヴァス	49.2×60.3	損保ジャパン東郷青児美術館
119 ふたつの果実	ポール・セザンヌ	1885年頃	油彩、カンヴァス	19.0×23.2	個人蔵
121 ラム酒の瓶のある静物	ポール・セザンヌ	1890年頃	油彩、カンヴァス	54.2×65.7	ポーラ美術館
122 庭園の花瓶	ポール・セザンヌ	1900-04年	油彩、カンヴァス	65.0×54.0	
123 ベル=イルの花束	アンリ・マティス	1897年	油彩、カンヴァス	46.0×38.0	諸橋近代美術館
124 セザンヌの静物画の模写	モーリス・ドニ	1914年	リトグラフ、紙	16.0×18.5	モーリス・ドニ=プリウレ美術館
125 果物皿と水差しのある静物	エミール・ベルナール	1931年	油彩、板	59.0×78.5	個人蔵
126 静物Ⅱ	ジョルジュ・ブラック	1912年（1953年刷）	エッチング、紙	32.6×45.4	横浜美術館
127 画架	ジョルジュ・ブラック	1938年	油彩、カンヴァス	89.5×107.5	横浜美術館
128 果物皿と新聞	フアン・グリス	1918年	油彩、カンヴァス	92.0×65.0	静岡県立美術館
129 テーブルの上	安井曾太郎	1912年	油彩、カンヴァス	46.2×55.1	福島県立美術館
131 静物	中村彝	1915年頃	油彩、カンヴァス	23.5×32.5	愛知県美術館
132 花	中村彝	1923年	油彩、カンヴァス	58.8×47.7	茨城県近代美術館
133 朝顔	中村彝	1923年	油彩、カンヴァス	57.5×40.5	郡山市立美術館
134 髑髏のある静物	中村彝	1923年	油彩、板	35.5×25.0	三重県立美術館
135 静物	岸田劉生	1920年	油彩、カンヴァス	39.6×52.0	島根県立石見美術館
137 静物	木村荘八	1919年頃	油彩、カンヴァス	65.3×80.3	練馬区立美術館
138 椿	斎藤与里	1916年	油彩、カンヴァス	116.7×80.3	埼玉県立近代美術館
139 机上のリンゴ	林倭衛	1918年	油彩、カンヴァス	23.6×33.2	郡山市立美術館
140 卓上静物	国枝金三	1919年	油彩、カンヴァス	45.3×53.0	和歌山県立近代美術館
141 静物	前田寛治	1923年	油彩、カンヴァス	45.8×60.6	鳥取県立博物館
143 水差しのある静物	川口軌外	1925年	油彩、カンヴァス	80.0×65.7	和歌山県立近代美術館

エピローグ

セザンヌの絵画は、誰の目にも魅力的に映る一方で、その表現は、とても複雑で難解でもあります。しかし、だからこそ多くの20世紀の画家たちは、それらに興味を持ち、自らが目指す絵画を実現するために、その起点にセザンヌを位置づけたのではないでしょうか。セザンヌは、近代絵画の展開に変革をもたらしましたが、彼自身もまた、伝統的な絵画を尊重し、そこから創造のヒントを得ています。展覧会の最後は、セザンヌの《ドラクロワ礼讃》をもって幕を閉じます。この作品は、セザンヌ自身の創作の姿勢を示すと同時に、それが20世紀の画家たちへと引き継がれていくことを密かに予告していると言えるでしょう。

145 ドラクロワ礼讃	ポール・セザンヌ	1890−94年	油彩、カンヴァス	27.0×35.0	グラネ美術館（オルセー美術館より寄託）

☆作品No.は展覧会カタログNo.と一致します。

★以下の作品は、所蔵者の都合により、展示期間が限られています。

36	2月7日（土）〜3月15日（日）	70	2月7日（土）〜4月5日（日）	76	2月7日（土）〜3月15日（日）
99	2月7日（土）〜3月15日（日）	100	2月7日（土）〜3月15日（日）		
66	3月17日（火）〜4月5日（日）	101	3月17日（火）〜4月12日（日）	102	3月17日（火）〜4月12日（日）
66（裏面）	4月7日（火）〜4月12日（日）	92	4月7日（火）〜4月12日（日）		

☆以下の作品は、横浜展のみに出品されたもので、本会場には展示されません。
（会場：横浜美術館　会期：2008年11月15日〜2009年1月25日）
25、37、43、44、67、74、75、78、80、82、83、98、112、114、118、120、130、136、142、144

一本の樹から、大きな未来へ。
50 STV anniversary

セザンヌ主義　父と呼ばれる画家への礼讃

2009.2.7-4.12

北海道立近代美術館

〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目　TEL 011-644-6882
美術館ホームページ　http://www.aurora-net.or.jp/art/dokinbi/
STVホームページ　http://stv.jp/cezanne/